

## 鉄鋼標準試料委員会ニュース

No. 60

## 鉄鋼標準試料委員会年間活動報告—1988年—

## 1. 会議開催状況

開催期日		出席者
1988. 1. 27	本委員会 常任委員会 (経団連会館 902号)	佐伯委員長 他 20名
1988. 4. 1	本委員会 常任委員会 (鉄鋼協会会議室)	佐伯委員長 他 15名
1988. 7. 20	本委員会 常任委員会 (経団連会館 903号)	佐伯委員長 他 18名
1988. 10. 20	本委員会 常任委員会 (経団連会館 903号)	佐伯委員長 他 19名

## 2. 日本鉄鋼標準試料 (JSS) の製造状況

## 2.1 新製品 (化学分析用)

- 鉛快削鋼 1種類 519-1  
高炉スラグ 5種類 900-1, 901-1, 902-1, 903-1, 904-1

## 2.2 更新品

## 2.2.1 化学分析用

- (1) 高純度鉄 高純度鉄 3種 003-2  
(2) 炭素鋼 20 炭素鋼 (030-6), 40 炭素鋼 (050-5), 80 炭素鋼 (065-3)  
(3) 専用鋼 炭素 (201-11), 窒素 (368-8)  
(4) 強靱鋼 SNCI (503-6)  
(5) 肌焼鋼 SCr 21 (513-5), SCM 22 (514-5), SNCM 24 (516-5)  
(6) 工具鋼 SKS1 (600-10), SKT4 (605-8)  
(7) ステンレス鋼 SUS 430 (650-9), SVS 316 (652-10)  
(8) フェロアロイ シリコマンガ (705-3)

## 2.2.2 機器分析用

- (1) ステンレス鋼 SUS 430 (650-11), SUS 304 (651-11), SUS 316 (652-11), SUS 309 S (653-11), SUS 310 S (654-11), SUS 347 (655-11)  
(2) 微量元素 B 微量元素 1号 (168-6) ~ 微量元素 8号 (175-6)

## 2.3 分析依頼中

## 2.3.1 化学用

- (1) 耐熱合金 耐熱超合金 NCF 2 (680-3), 耐熱超合金 NCF 1 (683-2)  
(2) 低合金鋼 低合金鋼 1 (150-9), 低合金鋼 3 (152-11), 低合金鋼 5 (154-11), 低合金鋼 6 (155-11)

## 2.3.2 機器分析用

- 肌焼鋼 S9CK (512-6), SCr21 (513-6), SCM22 (514-6) SNC21 (515-6), SNCM24 (516-6), SNCM26 (517-6)

## 3. 特記事項

- 3.1 新製品として化学分析用高炉スラグ (JSS 900 ~ JSS 904) の頒布を行った。なお、高炉スラグ標準試料の作成については「鉄と鋼」誌に技術報告を投稿することにした。
- 3.2 新製品として「0.9% 炭素専用鋼」の製造をすることにした。
- 3.3 JSS 002 よりも高純度な鉄の標準試料を製造するための調査研究を開始した。
- 3.4 分析方法のうち ICP 法を JIS 化後に採用することにした。
- 3.5 事業内容の効率化をはかるために下記対策を検討中である。
- (1) 品種の見直し (思い切った品種の削減, 新品種の開発促進, 外国 CRM との相互補完等)  
(2) 業務の外部委託 (試料調製から頒布までの一貫体制の検討等)  
(3) 素材製造作業の簡素化と費用の適正化 (ICP の活用等による偏析調査の簡素化コストに見合った素材製造費の値上げ等)  
(4) 分析依頼箇所の減少, 分析所の負担軽減 (ICP 法の活用)  
(5) 分析費の見直し (分析費実態調査, 製造ロットの拡大研究)  
(6) 頒布価格の見直し (製造コスト, 外部委託費の見直し) 及びその時期  
(7) 委員会の簡素化
- なお、品種の見直しは関西グループ, その他は関東グループで 1989 年 6 月末終了を目標として検討することにした。
- 3.6 標準物質取扱い団体の横の連絡と国の支援体制推進を関係官庁に働きかけていくための「標準物質懇談会」(主催: 日本規格協会) が設立されたので、メンバーとして参加した。